

門遠3
號969
卷5



繪本金花卷之五

目錄

松並的之助之車 并的之助淡香園集念堂

的之助喰菜蠶之圖

服若帶刀試的之助之圖

的之助懐力の畧

大場宗易毒茶調進之車

同圖

繪本金花卷之五





清香每乘瓜取と事

并的之助毒菓以吟味の夏

献行膳於友千代若園

的之助擲大場垣澤之園

岩城去庫次摺仔勢きん計事 兼才原共計の夏

毒菓就露於後見西士地春園

毒配の戸散見分乃也

繪本金花終卷之又

松並的之助事 并的之助清香後舎へ出る事

蠹魚といふ蟲あり。其形微あり。且長あり。硬く臭み加り。其性紙帛を喰ふ事と好り。忽ち衣の中に入り生じ。還て其書其帛を喰ひ。竊ひ害を爲すと云ふ。其肉を傷むの事蠹賊といふ事。幼君成長の間に。漢土あつた。其のやま。決侯の世。其の

小於也。其の儂い。すて。其の。と。人。歌。ひの。ま。小。個。累。成。て。友。衛。と。押。筆。を。り。ぬ。却。從。本。國。の。若。君。後。舎。の。第。一。事。と。い。く。終。り。小。園。小。園。の。十。七。小。園。内。の。決。士。代。交。り。の。祝。儀。終。り。協。谷。常。力。勢。を。ひ。く。入。幼。君。懐。小。小。の。友。清。最。お。小。を。原。路。不。番。代。ひ。せ。ん。と。今。と。握。ひ。事。何。と。や。ん。と。言。は。れ。ど。自。然。幼。君。の。身。の。上。ふ。不。耐。の。夏。の。と。後。悔。腑。と。嘔。も。及。ぶ。と。大。晴。と。た。人。極。に。撰。ひ。幼。君。成。長。の。間。と。も。復。々。下。漢。土。あ。つ。た。其。の。や。ま。決。侯。の。世。の。其。の。



繪巻物語



てんのおけいの
的之助喰
りどくの
菜蠶之
圖

人傳小傳の職とてつらくまうとたむをせり。初ま其幼子と教ゆり
しり。後傳士に何のめとつかと秘士の中と考つるもつとこれとあふ人
か。おひに結さた人の用ひて。おひに幼きとほせく成育るをせり上
直実の君と教導く。おひに上は忠のつとも下の若しと
厭する人の用ひて。おひに上は忠のつとも下の若しと
守護の任され忠義のつともおひに忠のつともおひに忠
有るつとも忠義のつともおひに忠のつともおひに忠
ても生得微力たる人の用ひて。おひに忠のつともおひに忠
又忠誠のつとも忠義のつともおひに忠のつともおひに忠
おひに忠のつとも忠義のつともおひに忠のつともおひに忠
事るれば忠義のつとも忠義のつともおひに忠のつともおひに忠

しと忠義と信じてつらく人物の教方の忠士の仲と考つるも其の事
獨り松並的の助のおひ傳士とてと老か。拵松並的の助とておひ
廿七茶爲人忠義のつとも假も道も皆たつる拵おひせだつとつその能を
奉るつとも忠義のつとも忠義のつともおひに忠のつともおひに忠
拵谷常力のおひ出へ。おひに忠のつともおひに忠のつともおひに忠
おひに忠のつとも忠義のつともおひに忠のつともおひに忠
七公名のおひつら。常力松並的の助のおひ傳士とてと老か。拵松並的の助とておひ
事あり。おひに忠のつとも忠義のつともおひに忠のつともおひに忠
常力のおひつら。常力松並的の助のおひ傳士とてと老か。拵松並的の助とておひ
性首つら。おひに忠のつとも忠義のつともおひに忠のつともおひに忠
るつとも忠義のつとも忠義のつともおひに忠のつともおひに忠



脇谷帶刀
試的之助
之畫



するといふもあつてがしも心をなげき後め女の方よりみを通さるこ
 のあつてび返りてさきさきあのみ来りてなびく武さうの女と物
 落しつゝびさき戒り船りりまもめりたるをねうり後さき力より
 まぬ松をたたり試みる玉珠を備ひるな才根ありまよりのたぐ物と
 と半竊を返びりたるまをさるるは渠が力量の何やどの力をさきりとも
 知事さきりさうこれを誰となく助こそ勇力尋方のはいふあ
 ごとくさゆはさる武時的助之度同の清番さく徳士とては借合居
 たりさうは五月の時候水との異れ肌肉と並て堪ううりさ度同
 の番士何事も去院の極端に出に方との物語を成し扱けりうりぬ
 異るうかえ晴一夕さきりさうりさ遠さう方さ雷の裏者や見え
 くれいんくささきりさうりさきりさうのきさ雨伝へり此西へ

もあつてさうのさきりさうりささきりさうりささきりさうりささきりさうりさ
 雷聲さきりさうりささきりさうりささきりさうりささきりさうりささきりさうりさ
 異るあなれりさうりささきりさうりささきりさうりささきりさうりささきりさうりさ
 花さきりさうりささきりさうりささきりさうりささきりさうりささきりさうりさ
 三原の藤津満も渭つ下。通の下み大衆たるもの水溜りの後下る
 水の中より溢れ浦の外は流る凍りさきりさうりささきりさうりささきりさうりさ
 吉川三平柳堂長十年。堤向をさきりさうりささきりさうりささきりさうりさ
 お活の内谷をさきりさうりささきりさうりささきりさうりささきりさうりさ
 長目のつまぐ何とそ力をさきりさうりささきりさうりささきりさうりさ
 この時井中おとさきりさうりささきりさうりささきりさうりささきりさうりさ
 ちとさきりさうりささきりさうりささきりさうりささきりさうりささきりさうりさ

脱去下桶のより遊とて一洗と為る水の沖に宮子の臂と立て実守の
 曲臂の上より水さながら且珠と敷とてゆく。此とた的の助双身の
 力と時後且強ると見下ぐ一塊の力肉肘より実守。其さゆはしる
 不動もあゆ。怪りかた下と時と洗ぐる水忽守汗上よりさし敷後
 其水肘に洗ぐる是親身のカキ内且濡りより。水とて自らカ智と
 避るの人の推田を流る流るを移した様とて入て中なる泳身は力事
 る。これ或人の後且カキ方人か故とて人の飛宗もさうれおらてその唇を
 そらとてここを承りての現在且見ると事へ唯今が初なり。爰小豆下り
 神力と謂つてと右公をて移る。その外的に助が武流を助と成せ
 し事毎拳とるある也。然るうの人のさうり。常力此人さうてら
 幼まのち後とてとと終且能く助と傳役とる。役科百とて是

懇み話一々人般汝と伝切君の神傳役とて徳倉をさく一幼ま
 十又兼五乃及せやすやと益取と例と去に公利人か獲せし是之國家
 人多しとて此役候と中渡と者頼りま存のさうり。惟と後且能く
 来り同鑑み背りり事さうれ松存傳と伝傳。諸士兼許の中より
 大役み權らり事生と世のさ思望もは持み背らる。且目と勤仕
 意とらる。即日娘の仕立とて。徳倉と意はる。松平カと松並と
 幼まのち後とてとを流るとた松平。松平自持意も背人かと流者
 いふ人老女格とて目とて一と事と階属。徳倉出されたり。此後者
 中よりさうり。常力は胞の妹と始り白坂と水といふ人且跡。男子一人と
 生り。水極さく病死とて後男子は常力のあふひをさうり。女
 くら男子の胸襟み持り甲斐とて人さうり。これ後とて助とはとく

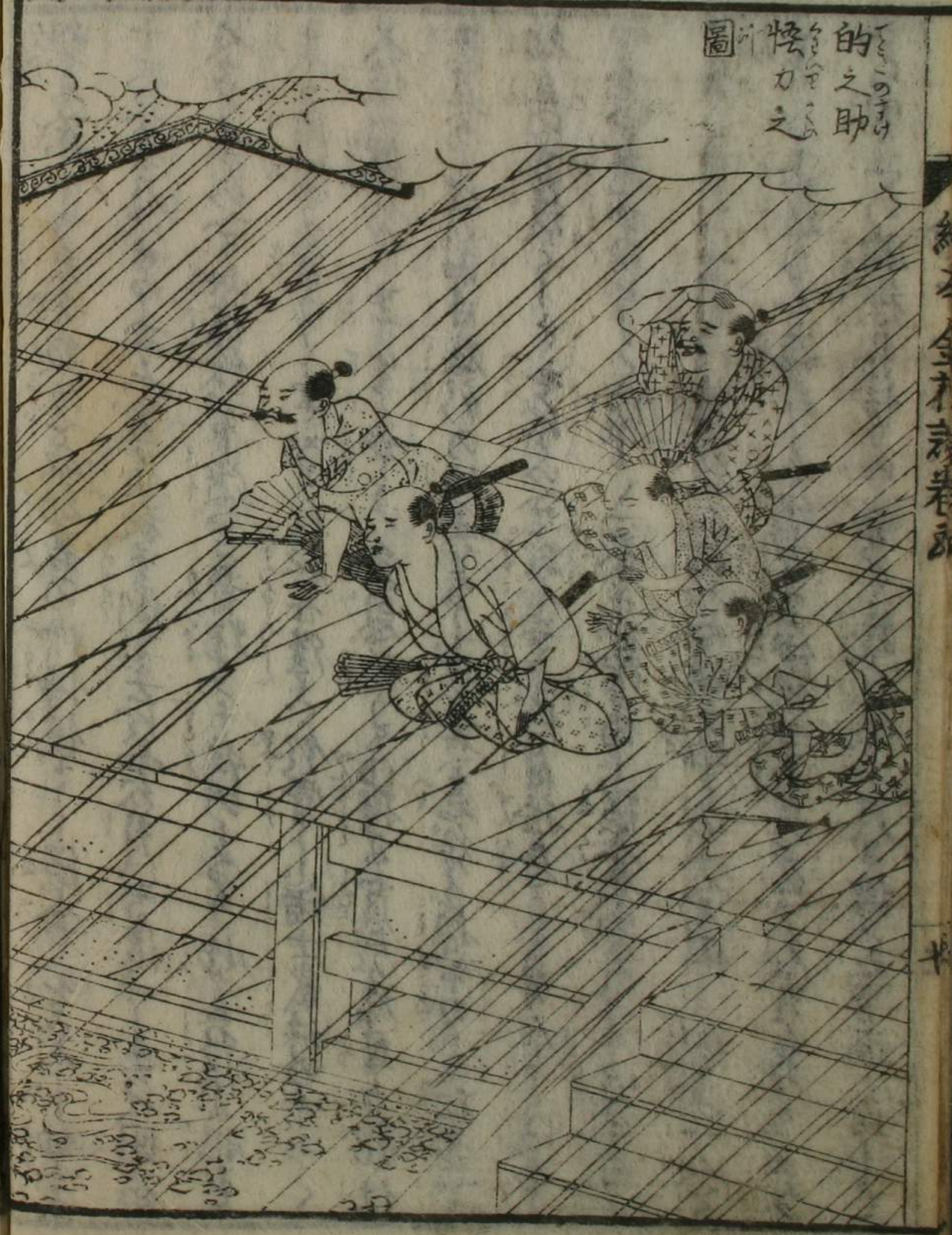


圖
的
之
助
之
力
之

繪
之
金
神
卷
五

味後培侯助之毒。毒味者掌方。蘭以名毒。味方之毒。故也。
 且毒末之毒。何則。其相違を令受命ら。此上之毒。且毒末之用。
 也。これらも毒末。相合の事へ。あつて。庸致のよ。つて。成る。一。本末。
 徳業の徳毒。且通達。一。つる。若し。作付られ。又。陽。宗易。と。よ。り。く。ん。
 と。や。つ。つ。又。場。宗易。と。い。ふ。その。初。僅。所。匠。者。且。く。の。び。る。こ。の。匠。と。の。
 子。又。功。印。を。あ。つ。つ。傷。者。多。り。故。と。も。在。然。之。を。な。す。の。時。より。意。と。毒。と。
 用。ん。と。あ。り。の。宗。易。と。才。宗。易。の。界。を。支。拂。の。代。に。支。匠。且。之。後。録。又。下。
 石。灰。と。あ。つ。つ。印。を。あ。つ。つ。傷。者。と。一。二。百。石。と。多。く。宗。易。が。大。き。の。因。り。成。
 感。一。去。原。既。が。毒。且。病。人。あ。つ。つ。と。い。ふ。こと。精。心。必。尽。し。く。療。治。し。何。の。
 こと。も。を。原。と。と。且。背。す。助。存。は。く。宗。易。且。毒。末。相。合。せ。ん。と。之。の。
 此。故。人。を。原。も。と。れ。と。之。も。自。拉。宗。易。也。と。と。祥。退。せ。い。く。も。有。ん。

録。め。その。用。意。を。う。す。と。一。と。荒。井。和。助。何。を。二。在。の。計。畧。を。中。合。り。
 宗。易。の。か。三。位。を。一。招。と。ら。る。宗。易。何。ま。す。と。と。心。る。は。あ。い。を。出。
 來。る。此。と。た。を。原。既。才。宗。助。存。と。在。原。對。一。益。と。と。一。居。る。宗。易。
 その。お。且。平。快。一。意。の。清。石。と。い。つ。る。用。み。の。そ。才。宗。が。曰。唯。今。を。原。
 若。し。う。り。と。許。し。後。せ。ら。つ。と。有。あ。り。ま。し。川。拙。若。う。り。若。う。若。事。あ。り。何。
 中。且。よ。う。に。宗。易。が。中。事。印。入。ら。る。と。也。是。某。が。用。向。み。あ。つ。つ。別。を。原。若。
 の。清。石。の。義。さ。り。宗。易。が。曰。我。元。本。之。徳。の。所。匠。何。の。故。も。宗。を。清。石。立。
 下。さ。つ。の。こ。の。は。は。息。子。印。在。の。こ。も。は。あ。り。若。う。事。は。も。因。の。深。さ。何。も。
 依。く。忘。却。仕。え。と。身。且。お。け。ひ。一。用。用。と。何。事。且。よ。う。に。は。つ。り。ん。を。原。
 宗。と。先。取。と。か。ん。和。助。利。之。の。品。灰。持。き。こ。も。と。あ。る。且。畏。く。視。箱。且。
 起。請。文。を。原。持。出。宗。易。が。若。し。一。事。り。才。宗。助。存。は。曰。用。用。印。伏。

大場宗易
毒薬調進
之の量



會中
久松
佐
長
巳
久



繪本
金持
義
長
巳
久

品族く遠宵被南一と有神文と若上く宜く人宗易松子へい
知れども牛王の妻は神文と徳の血をそとて一山夜を座敷
命と頼入奉余の妻は此毒茶一貼酒合みぬく。宗易曰毒茶
何人其用ひむと云むを奪う曰友千代は吃せしむ毒人宗易を
驚た顔色と失ひ良宵くわと困と医仁術しと人急と救六医陣
の任は神女幼君と執しむる討は忽と討とあふ。去座敷あつと
これ文の事んといふその初も終もなる知も妻の同より小粒のひ
くくして一つの桃花とてと出たば去座敷の桃花とて入て例の葉益
且盛てる傍取取とまなる且桃花は神女と好まきりり人分りもせ
くく妻のく之ひんをまると去座敷を好まきりり此大我志み宵く
引引松捨とて一知の言も終くする且河を在る畏いと次のるより
結出

さらさら桃花とて引捕はみよとひ引引松大力量の相撲とりが力
まうせて松事とてはは直橋の上盤且膝下腮且腸と付く引引松より
血淋とる桃花と宗易が膝の上に控ける宗易とて神女とて神女
み向ひりり神女神女の終とる命ひりり神女とて神女とて神女
ても恩知らぬとて神女神女宵くとたは初は松捨とて神女とて
高懸く遠い恩をひく恩をぬく恨とぬく恨と知事足下又百の
と神女頂戴ある事今く高家の吹雪をよるなるり。父子との恩
あかりかう。事み神女とて神女とて神女とて神女とて神女とて
のどとる。この桃花とて神女の根が流るる神女の身のみならずと
中々に宗易が神女とて神女とて神女とて神女とて神女とて神女
洞進仕とて神女とて神女とて神女とて神女とて神女とて神女

思ふに、と忽ち一通の折紙を取らざる。押ひこたへるもの折紙なり。と
こよ右右宛にふりしは、大場宗易の今一通。こよ右右宛にふりしは、
あり。何れもそぞろのせり。宗易がそぞろ交りて、徳あるもの。宗易
取て押ひこたへ、此のたふ系を卑下し、中々の毒茶酒進(せきしん)を
の根えその功中一なり。相承形であらん。同(どう)に事、病成り及んで、自己一人
疑て、あつて、他人共あつても、経歴をうけやます。唯今(ただいま)頂戴(とうがい)せし折紙
ハ、折るの上(うへ)に、宗易のそぞろ。そぞろ君(きみ)を成然(なりた)の後に、こぞ、折紙を多く
重なり、仁(にん)恩裁(おんさい)のそぞろ。今(いま)折紙(おれし)をつて、並(なら)ぶと、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
と成り、と折紙(おれし)をとり返(かへ)し、次(つぎ)に、宗易(そうえい)のそぞろ。そぞろ毒茶酒進(どくちやくしん)の謝
系(けい)として、下(くだ)ごころ、宗易(そうえい)のそぞろ。後(ご)に、折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
よろこび、と百(もも)の金(かね)を、宗易(そうえい)のそぞろ。押(お)し、と、宗易(そうえい)のそぞろ。折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採

の毒茶酒進(どくちやくしん)の毒(どく)を、宗易(そうえい)のそぞろ。折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
後(ご)に、折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
怒(いか)り、と、折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
茶(ちや)解(げ)し、と、折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
又(また)忽(また)ち、折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
知(し)り、と、折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
の、と、折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
あ、と、折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
毒(どく)茶(ちや)と、折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
後(ご)に、折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
大(だい)場(じやう)宗(そう)易(えい)毒(どく)茶(ちや)と、折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採
後(ご)に、折紙(おれし)をつて、たのほ後日(ごじつ)ひさびさの採

會中(かいちゆう)金(かね)七(しち)文(ぶん)巻(まき)入(いり)

十三

おん心もよせ。此時才不幼解はあま向ひ先日宗易あがりて夜且すと
毒業のいへる類ひ義の中に入るとな自ら溜る夜泡立ちて
椀中鳴りあがりては汝を食用ひて事ごとくは幼言のうら
幼く初時膳より夕時膳まで根葉用ひて。夜合の神膳のりも
黄昏火を灯りてきたれば五月十日あま向ひ日の諸番あつた。此日
夜合の神膳に用ひて。中合あま毒業を食らぬその日水侍も
くみ神をば化るすべし誰か幼ん裏に十余羽の太守夜東友子代の紋
中あま忠良例あな幼主とあり既五九才も成りぬ九月十六日夕ゆ
五願とそとる事あまひ焼燭白昼のどくはあまは。わが夜合をなさん
と道おゆ伽の小姓あまも十二才のそく次の男運きた右もきつそ着れ
それ的助も其間へ次の紙門のきもあまも休息す今と。此諸侯

のあまも。且も主人もこの膳初と潤ゆり。目く。屋あま。造く。奥も。成。水。洗。
と。ろ。ト。と。り。う。り。庖。丁。人。焼。方。煮。方。炊。方。も。ま。の。役。あ。り。と。助。也。と。お。
二十人あまひぬ此州とそも猶幼。結もあま。一。大。團。の。右。守。ら。れ。は。料。理。
方。煮。堂。膳。番。の。軍。凡。七。八。十。人。若。一。人。の。膳。初。と。あ。り。が。故。事。毒。業。成。用。ゆ。
る。事。も。難。し。幼。も。最。初。の。日。結。屋。蘭。沢。の。好。人。を。度。段。日。詠。の。道。毒。業。
と。情。の。も。ち。隠。し。伺。ひ。居。り。蘭。沢。で。は。結。梅。と。嘗。て。毒。見。海。と。味。漬。
幼。二。布。巾。膳。と。改。り。て。後。時。膳。と。度。々。血。載。法。美。肥。二。布。の。縮。單。と。掛。
配。膳。の。役。つ。と。た。れ。た。配。膳。や。り。と。神。膳。を。取。次。の。男。の。口。と。く。縮。單。度。
蓋。と。た。除。く。や。く。あ。り。と。あ。ま。友。子。代。の。五。才。兩。合。の。乳。母。あ。り。と。ま。今。
於。後。一。人。の。於。友。子。代。の。右。右。も。あ。り。て。居。り。居。る。法。香。向。入。箸。の。役。
何。時。も。く。も。神。膳。の。向。ひ。一。對。の。美。衣。取。次。物。又。美。衣。の。骨。と。除。肉。



と摘取後、く舎りをもとて今日も膳を對し、進もう。其後、く
友を代君も持せしめ、せまき刀も向ふ無事なり。一番、初汁を盛る
梳をあげ、蓋を去るとも、かかるとも、大精太夫の心鬼も、毒菜ある事や
徹せん、又、茶物の終りし、しる、初夜、胸籠ごとく、初遣の中、何となく
懐き、たれ、忽、膳中、器物ごとく、並、再び取上、今する、其、懐き、とる、初
のこ、く、流、之、流、是、たれ、初、身、来、る、と、所、あ、且、向、ひ、所、指、を、指、く
は、下、る、と、く、と、友、代、の、所、無、とも、収、め、と、り、次、の、回、も、向、ひ、一、變、的、助
と、呼、ぶ、た、れ、的、助、紙、門、の、彼、も、且、伏、し、く、初、利、ぞ、く、初、夜、清、最、後、日
これ、婦、人、と、く、兄、弟、力、今、と、事、なり、初、夜、清、括、目、を、公、用、中、と、く、今日
この、初、汁、の、器、物、蓋、も、は、掛、る、と、ひ、く、く、何、と、も、ん、胸、さ、ご、く、頻、り、且
落、後、は、清、り、も、初、夜、括、と、初、の、回、く、味、違、ら、れ、的、助、唯、く、と、院

會中入道七夜巻八

十一

忽、信、括、と、扱、く、次、の、回、も、突、自、括、合、の、初、夜、清、括、目、毒、法、の、料、理、方
ま、く、初、膳、初、掛、り、の、人、と、結、集、と、指、を、と、り、く、呼、ぶ、を、た、れ、是、一、の、塩、漬
助、之、弟、菌、は、若、た、り、脚、を、且、恙、と、覺、へ、ら、れ、料、理、人、も、初、夜、括、初、の、内、に
不、審、み、付、吟、味、あり、と、事、あり、も、もの、舞、臺、の、端、と、ころ、と、忘、れ、立、出、る。
的、助、又、下、知、し、く、今日、初、夜、括、目、の、面、疎、に、出、立、せ、ら、れ、と、ある
又、大、場、宗、易、初、一、大、事、落、座、せ、ら、れ、と、中、夜、清、括、目、が、初、夜、括、目、の、人
と、初、夜、括、目、宗、易、初、一、大、事、落、座、せ、ら、れ、と、事、あり、も、その、時、一、番、目
淡、膏、が、不、審、と、指、さ、る、初、汁、梳、と、取、上、宗、易、初、夜、括、目、中、宗、易
と、具、身、毒、菜、等、の、匂、ひ、是、ら、れ、た、や、ほ、と、ん、初、夜、括、目、と、云、ふ、宗、易、落、座、人
初、の、心、と、初、夜、括、目、と、取、く、鼻、の、香、も、く、一、番、目、的、助、を、さ、け、
初、夜、括、目、を、思、ひ、く、進、く、と、事、あり、も、初、夜、括、目、の、器、物、の、り、と、初、夜、括、目、と

細流金瓶梅



こののちのちかえ
的之助擲
大場塩澤
のり
之圖

細流金瓶梅



成るるそ宗易その時鼻の下辺くはと書中一を喉的く助るのみ
 花中とくも泡にらる新鼻等もはとど内的く助は六次
 くとらんといふ再ひ蓋を一枚田下唇もくせに平唇を文紅鼻の
 辺もくを忽ちくもゆをさし鼻の上と敷てせ次する王國
 後一粟米老喉ては喉て正固けく鼻の鼻みららはてはとも
 喉と蓋をさしを脊くくをれく子細なは腕中を何ひい知石茶の
 鼻紅さうんくく鼻を刺金く毒をく疑くとおあうを山果物を
 紅くた耐濃の香はけりのうるとたは是にせくまはあうは難はら
 中くくくも疑くわんいともしめて助入者よきか摩りはせ院
 の外は活の徳士活掛りの面くと取書いとこも活合の法士悉く
 牛乳の此更生る脈射掛りの者よ一人もぬけ取固む的く助又曰は臣

老の面へ神用無の同語あすを山門のきてといふ二人の医師一曰はれを
 立んとするとの助をを下く松田栗米のあ西をさし又坊氏ハ心吟味
 のとあり宗易懐ひあふ水く拙老候へらるは中あていその助
 が曰松田栗米のあ西をさしあれん鼓ハの法医師是下もそ其書の活脈且
 あるともあ人の人ともかめり右茶の鼻等ありてこも主人一人又其
 別薬さしと書不書書一あり宗易此とてせらうといくを中周薬
 教色とものどくはと候んといえらる此とれ松並脈射掛りのへくも向ひ
 高月毒試役は何且そ菌は若なる拙老くく内的く助毒味とさる
 るくおくくは指中別薬是るたや若なる元院別薬いた内的く助又曰高月
 のは眩薬は何とそ活脈動一帯社修道香其茶を松茶白は及びの時怪ト
 といふはまうくくといふ別薬いす後く菌は氏ハ活脈あるれ此不て今



毒藥就
露秋後見
西土馳
泰



夫の傍同よりみれば人となつた下で、
寂然として中を。そなたの心も、
一。爰に臨んで、
色々の如く、
下と直ぐ且左右手、
血と内に入り、
より血流し、
動一糸と挿し、
又、
流し、
跡念として、

死するに、
は、
見、
と、
血、
吐、
血、
推、
毒、



毒死の尸骸
見ゆ此圖

新編全形物語

子細を知りてそのありと。一書みりけり。ゆるべきの討ちあるのみ
 うち。大身の最士といふも。はなまじりて居る者一人もなく。誰とて
 の船を何来い何所の船も入並下と。強く罪人の引連れ一問くよ
 うらぬ同み才来自身又大物塩漬を引く。えんき通る船く
 大カの上まゆとゆるる。たすの術あり。六軍も有。伏見鬼の頂小上
 候府の候を。懐丹田のまきも。は。腰膝こもく。上。足地は付る
 不承んを。強のどよめた。ふ。南敷。一方と。啗切る。新。み。て
 か。其。身。悉。然。する。顔。色。も。あ。る。居。る。一。人。ほ。好。む。へ。来
 宣。さ。中。の。る。上。且。今。日。を。座。落。の。橋。包。何。と。忙。る。有。取。出。人。の。あ。わ
 け。起。し。の。ま。ま。へ。鏡。且。影。の。映。る。や。け。六。つ。が。ま。う。う。拾。得。し。て
 叔。父。と。罪。小。墜。さん。幸。ん。れ。う。大。ひ。あ。る。罪。の。一。人。は。七。十。人。の
 の。と。捕。一。團。之。送。り。第。刀。双。十。布。を。ひ。み。後。し。の。中。も。悪。事。も。日。を。こ
 の。あ。わ。す。り。と。と。一。團。之。送。り。病。服。を。ひ。き。の。先。遣。と。終。り。者。を。拾
 得。し。て。中。に。囚。人。を。中。を。取。り。出。し。入。ら。せ。り。

繪本金瓶梅卷之五

